

内モンゴル自治区における女性の政治参画とジェンダー平等 ビ・ジュンメイ（中国）

内モンゴル自治区の人口は現在 2386.4 万人で、このうち女性が 1157.1 万人です。内モンゴルでは、女性が政治、経済、文化などあらゆる場面で、重要な役割を果たしています。

内モンゴルにおける第 3 期社会地位調査によるデータ分析を見ると、内モンゴルは、ジェンダー平等が進んでおり、政策として男女平等の基本概念を取り入れていることで、女性の社会的地位が明らかに高くなっています。内モンゴル地域のジェンダー平等の総合指数は、数年前に比べて良い結果がでています。

調査によると、回答者のうち 65.9 % の人は男女間の社会的地位がほぼ同じと回答しています。それ以外にも、「女性の能力は男性に劣らない (85.8%)」「男性も家事を分担すべき (88.9%)」「ジェンダー平等な社会を実現すべき (86.9%)」という項目に対して、賛成と回答した割合が圧倒的に多くなっています（括弧内は賛成と回答した人の割合）。一方で、「男性は社会に出て仕事をし、女性は家庭を守るべき」という質問に対しては、男性 60.8 %、女性 51.5 % が賛成しています。

内モンゴルにおける女性の公共政策への参画の統計によると、94.8%の女性が「国内外の重要な事務」に関心を持っています。内モンゴル自治区では、党政部門や立法機関、政治協商や、さらには行政の末端においても、政治に参画している女性の数は全国の水準より高めでした。しかし、一般的に女性が政治に参画する場合は、行政の末端の仕事に従事することが多いようです。

内モンゴルでは、政府機関や地方自治体機関で積極的に女性を登用しています。女性が政策決定機関で働くことによって、女性の政治への注目度が高まり、女性の意見が公共政策に取り入れられる大きな要因となっています。政府機関と地方自治機関以外には、多くの営利企業がありますが、それらの企業は単に利益を追求するばかりで、政府機関や地方自治機関に比べると、従業員の政治に対する関心が低いといえます。

女性は社会にとって重要であり、女性の政治参加がジェンダー平等な政策への第一歩です。男性にとっても女性にとっても、ジェンダー平等を達成することが、調和のとれた良い社会のきっかけになるのではないのでしょうか。